



TITLE:

船腹調節策

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 船腹調節策. 經濟論叢 1917, 4(6): 843-860

ISSUE DATE:

1917-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127218>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科

經濟論叢

第四卷 第六號

大正六年六月一日發行

論說

中壽ノ說(二).....	法學博士 財部 靜治
奢侈税ノ本質及其構造.....	法學博士 神戶 正雄
『座』ノ研究(三、卷).....	文學博士 三浦 周行
東洋ニ於ケル古代ノ社會政策.....	瀧本 誠一

時事問題

船腹調節策.....	法學博士 戶田 海市
禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃.....	法學博士 神戶 正雄
米國ノ勞働缺乏ト日本移民.....	米田 庄太郎

雜錄

Utilityノ譯語ニ就イテ.....	法學士 小島 祐馬
海上保險發展史ニ關スル一異說.....	法學士 小島 昌太郎
山片幡桃ノ米價論.....	法學士 本庄 繁治郎
精神の活力ト年齡.....	法學博士 河上 肇
佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來.....	山本 美越乃
Ch. Boothノ死ヲ聞キテ.....	法學博士 財部 靜治

時事問題

船腹調節策

戸田海市

戰時ニ於ケル貿易ヲ増進スルニ付キ正貨ト船腹トノ利用ハ共ニ重要ノ意義ヲ有シ、又正貨ノ利用方法ノ一トシテ貿易金融ヲ改善スルノ急務ナルコトハ本誌前號ニ論シタ如クテアルガ、茲ニハ船腹ノ利用ニ付テ卑見ヲ述ヘル。

貿易ヲ増進スルト云ヘハ輸出ト共ニ輸入ヲ増進スルコトヲ意味スル。我國ノ如ク天然資源ノ貧弱ナル國ニ於テ原料輸入ノ利便ヲ圖ルコトハ、製品ノ輸出ヲ増進スルコトト同シク經濟ノ發達上重要テアルカラ、船腹ノ利用ニ付テモ成ルヘク輸出入双方ノ増進ニ注意セテハナラス。今日世界ヲ通シテ船舶ハ最モ缺乏セルモノノ一テアルガ、幸ニ我國ハ自國ノ國旗ノ下ニ在ル船舶ヲ利用スルノ餘裕ヲ多ク有スル國ニ屬シ、現ニ邦船ノ外國ニ對スル備船力盛ンニ行ハレツツアルニ係ハラス、我貿易港ニ於ケル輸出貨物ノ停滯ハ巨額ニ達シテ空シク輸出ノ好機ヲ失ヒツツアルノミナラス、

輸出關係者ハ金利倉敷料等ニ付テ多大ノ損害ヲ蒙ムリ、又貨物ノ損傷モ少ナクナイ。我國ノ輸出貿易ニ付テハ兼テ諸外國ヨリ商業道德上ノ批難ヲ蒙リ、特ニ戰時ノ輸出ニ付テ此批難カ高マツテ居ル。其批難ノ中ニハ粗製濫造ニ關スルモノカ最も多ク、之ヲ矯正スルコトニ努力スルノ必要アルハ勿論テアル。只タ我輸出品ニ附着スル此缺點ハ生産取引ノ組織ノ上ヨリ來ルモノカ多ク、從ツテ一朝夕ニ此弊ヲ矯正スルコトハ困難ナルガ、責メテ此際船腹調節ヲ適當ニ行フテ成ルヘク輸出取引上ノ期限ヲ正確ナラシメ、以テ商業道德上ノ批難ヲ寛和スルコトヲ必要トスル。固ヨリ今日世界ヲ通シテ船腹ノ缺乏甚シキ以上ハ、我國ノ貿易カ獨リ充分ニ船腹ヲ利用スルコトハ困難ナルガ、尙ホ其調節ヲ適當ニ行ヘハ今日ノ如ク甚シキ出貨停滯ヲ救済スルコトハ不能テナイ。

歐洲戰爭ノ今後ノ經過ノ如何ニ由テハ我國ハ友國ニ對シテ船腹供給ノ責任ヲ引受ケサルヲ得サルニ至ルカモ知レヌ。此場合ニ我國ハ邦船ノ多數カ備船トシテ事實上友國ノ爲メニ輸送ニ從事シツツアルコトヲ理由トシテ友國ノ請求ヲ一概ニ拒絕スルコトモ困難テアリ、止ムヲ得スシテ現ニ我海運業ノ手ニ由リ我貿易ノ爲メニ使用セラレツツアル邦船ノ一部ヲ友國ニ利用セシムルコトトナルカモ知レヌガ、斯クナレハ我貿易ハ固ヨリ大ナル打撃ヲ蒙ラチハナラヌ。新聞紙ノ傳フル所ニ由レハ目下英米ニ於テハ米國ノ歐洲出兵ヲ我國ノ船舶ニ由テ輸送スルコトヲ希望シツツアルトノ

コトテアルガ、今日交戦國ノ最モ必要トスル所ハ船舶ヲアツテ、無論我國ノ船舶ヲ利用スルコトヲ希望スルニ相違ナイ。只タ今日ノ如ク英國船ノ少ナカラサル部分カ直接ニ本國ノ航運ニ使用セラレス、世界ノ海運界ニ於ケル地歩ヲ維持スルカ爲メ他ノ方面ニ航運ヲ營ミツツアル限リハ、妄リニ我國ニ對シテ船舶ノ供給ヲ提議スルヲ得マイガ、獨逸潛航艇戰ノ效果カ更ニ重大トナルトキハ、英國ヨリ如上ノ提議ノ起ル可能ハ頗フル大トナル。此場合ニ我國カ多數ノ邦船ヲ我貿易ノ爲メニ使用シツツアルナラハ、其一部ヲ割テ友國ノ用ニ供スルモ、之カ爲メニ蒙ル貿易上ノ打撃カ寛和セラレルノテアル。此點モ亦船腹調節上全然考量ヲ加ヘルノ價值カナイトハ云ハレマイ。

二

船腹調節ヲ研究スルニハ先ツ補助航路ニ從事セル保護海運會社ノ命令船ノ利用ヨリ初メルコトヲ便利トスル。此命令船ノ利用ニ付テハ各航路ノ緩急ニ應ジテ船腹ヲ増減シ、又各航路ノ發着點及寄航點ニモ變更ヲ加ヘテ其利用ヲ高メルコトモ考ヘテハナラヌガ、此等ノ利用方法ニ付キ今日ハ最早ヤ研究ノ餘地カ多ク存シナイヤウテアル。只タ命令船ノ本邦出發ニ際シテ本邦貨物ヲ積載スル船腹ノ歩合ヲ更ニ増加シ、途中ニ於テ外國貨物ヲ積載スル歩合ヲ夫レ丈ケ減少スルノ餘地ハ尙ホ存スル。保護會社ノ立場ヨリ見レハ、命令船ノ邦貨積載運賃ハ非常ニ低率ナモノテアツテ、外國貨物ヲ積メハ數倍ノ運賃ヲ收メ得ル故、成ルヘク邦貨積載歩合ヲ減シテ外國貨物ヲ多ク積取ル

コトヲ利益トスルハ言ヲ待タヌ。

然ラハ國民經濟上ヨリ見テ邦貨積載歩合ノ増加ヲ命スルノ利害如何ト云フニ、今日各航路ニ於テ保護會社ハ命令船ノ船腹ノ七割内外ヲ邦貨ニ對シテ供給スル外ニ、命令船ト同數以上ノ自由船ヲ發シ、其船腹ノ殆ント全部ヲ邦貨積載ニ當テツツアルニ係ハラス、尙ホ今日ノ如ク諸貿易港ニ於テ多大ノ滯貨ヲ見ルニ至ツタノテアル。故ニ命令船ノ邦貨積載歩合ヲ相當ニ増加シテモ、之ニ由テ滯貨ヲ處分スルノ効果ハ甚タ少ナイ。加之我國ハ工業ヲ發達セシムルノ必要アルト同シク、世界ノ海運國トシテ發達スルノ必要アルカ爲メ、從來國家ハ多大ノ補助金ヲ支出シテ先進海運國トノ競争ニ對シ定期航路ヲ保護シタノテアルガ、戰爭以來諸外國ハ非常ニ船腹ノ不足ヲ感シテ我國ノ定期船ニ依頼スルノ情カ強クナツテ來タ。故ニ戰後モ我海運業カ列國ノ競争ニ對抗シテ行クニハ、今日ノ如ク邦船ノ寄航スル諸國民ノ之ヲ待ツニ天旱ノ雲霓ヲ望ムカ如キ狀ヲ呈スルニ際シテ成ルヘク其便宜ヲ圖リ、以テ之ト確實ナル聯絡ヲ附ケテハナラヌ。海運業ノ發達ハ國防上ノ重大要件テアツテ、世界ノ大海運國ハ戰後非常ノ努力ヲ以テ其海運業ノ恢復ト發達トヲ企圖シツツアルカラ、我國ノ海運業ハ之ニ對抗スル爲メニ成ルヘク戰爭中ニ基礎ヲ固メテ置カテハナラヌ。戰時ニ輸出ノ増加ヲ呈シタ貨物ノ中ニハ戰後ニ輸出ヲ繼續シ難キ劣勢ノモノカ少ナクナイガ、海運ト云ヘル定期船ノ勤勞ハ戰後ニモ大ニ之ヲ世界ニ供給スルノ必要ト可能トカ存スル。又今日我輸

出品ハ一般ニ價格ノ騰貴ニ由テ正貨ヲ吸收シ來ル力カ頗フル高マツテ居ルガ、海上輸送ト云ヘル勤勞ハ價格ノ最モ騰貴セル輸出品ノ一テアル。即チ外國品運輸ノ貨率ノ騰貴ハ我カ一般輸出品ノ價格ノ騰貴ニ劣ラス、寧ロ一層大ナル騰貴ヲ呈シテ居ル。故ニ命令船ノ邦貨積載量ヲ増加スルコトニ由テ正貨ヲ吸收シ來ルト、外國貨物積載歩合ヲ維持スルコトニ由リ運賃トシテ正貨ヲ吸收シ來ルトハ、正貨吸收上輕重ヲ附スルヲ得ナイ。

三

多年逆境ニ立テシ社外船カ戰爭以來盛ンニ諸外國就中聯合諸國ノ爲メニ傭船航運ヲ爲シテ巨大ノ收益ヲ擧ケ、我カ保護會社ニ傭船セラレテ居ルノハ極メテ小部分ニ過キナイ。世界ヲ通シテ船舶ノ缺乏甚シキニ至レル今日ニ於テハ、外國船ヲ呼ビ寄セテ之ヲ我貿易ニ利用スルコトハ困難テアルカラ、今後ノ船腹調節上有効ノ方法トシテハ社外船ヲ利用スルノ策ヲ講スルノ外ハナイ。而シテ之ヲ利用スルニ付キ一部ノ論者ハ彼ノ交戰諸國ヲ初メトシテ目下諸外國ノ採用シツツアル對外傭船禁止ヲ我國ニモ實行スヘシト主張スル。此說ヲ實行スル爲メニハ先ツ消極的ニ外國ニ船舶ヲ賣却スルコトヲ禁止スヘキハ勿論、此禁止ノ精神ヲ貫ク爲メニハ外國ヨリ造船注文ヲ引受クルコトヲモ禁止シ、只タ外國人カ自カラ造船材料ヲ供給シテ造船ヲ注文スル場合ニ限り、其注文ノ引受ヲ許ルスカ如キ方法ヲ講セネハナラス。又積極的ニハ社外船ノ航行ニ付キ本邦ニ發着點又ハ寄

航點ヲ定メシメ、特ニ名義的ニ一度本邦ニ寄航シテ責任ヲ塞キ、實際ニハ諸外國間ノ航運ニ由リ利益スルコトヲ防クカ爲メニハ、少クトモ一定期間内ニ本邦ニ回航スルコトヲ命シ、若クハ更ニ進ンテ其ノ航路ニ付キ干涉ヲ加フルコトカ必要トナルテアラウ。併シ此等ノ種々ノ強制ヲ加ヘテモ充分ニ社外船ヲ利用スルコトハ困難ナル。故ニ社外船又ハ非命令船ヲ強制的ニ利用スルノ主義ヲ是認スル以上ハ、更ニ徹底的ニ其徵發ヲ行フテ一々ノ航運ヲ認可シ又ハ命令スルコトノ簡明有効ナルニ如カヌテアラウ。

社外船ノ強制利用主義ハ其強制ノ程度ニ由テ大ニ利害ヲ異ニスル點モアルガ、一體ニ此強制主義ノ當否ヲ考ヘテ見ルニ、第一社外船ハ何等政府ノ補助ヲ受ケスシテ多年不利ノ地位ニ立チ、戰爭以來初メテ保護會社以上ニ有利ノ地位ニ立ツコトヲ得タノテアルガ、戰後ニハ再ヒ惡境ニ陥ル時期カ來ルカモ知レヌ。特ニ大多數老朽ニシテ速力ノ小ナル社外船カ永ク遠洋ニ航行シテ諸外國船ト競争スルコトハ頗フル困難ナル。故ニ社外船カ多大ノ收益ヲ得ツアル今日之ヲ強制的ニ利用シテ其收益ヲ減スル上ハ、他日社外船カ悲境ニ陥ツタ場合ニ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與ヘルコトカ政治道德上穩當ナル。然ルニ國庫カ此ノ如キ責任ヲ引受ケルコトハ財政上甚タ不利ナルノミナラス、我海運業ヲ發展セシムル爲メニモ、此ノ如キ補助ヲ爲スコトハ最良ノ方法ト云フヲ得ナイ。成ルホド今日社外船主ハ一般ニ巨大ノ利益ヲ得ツツアルガ、戰時利得ノ法外ニ大ナルモノハ

海運業以外ニモ多クアル。故ニ社外船ノ戰時利得ノ大ナルヲ理由トシテ獨リ之ニ強制利用主義ヲ適用スルヲ得ナイ。公平ヲ保ツ爲メニハ別ニ一般の戰時利得徵收ノ方法ヲ講スヘキテアル。固ヨリ國家カ危險ノ地位ニ陷ツタ場合ニハ、社外船ト雖モ保護會社ノ命令船ト同様ニ之ヲ強制利用スルコトニ躊躇スルヲ得ナイガ、目下ノ船腹利用ハ如何ニシテ國民經濟上ノ利益ヲ増進スヘキヤノ問題デアツテ、國家又ハ國民生活ノ危窮ヲ救フノ目的ヲハナイ。故ニ此問題ヲ決スルニハ上述ノ如キ政治道德上ノ考量ヲ缺クコトヲ得ナイ。

更ニ此強制利用主義ノ國民經濟上ノ利害ニ付テ考フルニ、前ニモ述ヘシ如ク海運ト云ヘル勤勞ハ我國カ輸出スルモノ中、最モ有利ナルモノテアル。故ニ此主義ヲ探テ其輸出ヲ制限スルコトニ由リ他ノ商品輸出ヲ増加スルコトハ別段ノ利益ヲ生シナイ。最モ社外船ノ強制利用ヲ行ヘハ獨リ輸出ヲ増加スルノミナラス、直接ニ輸入ヲモ増加スルノ利アルニ反シ、今日ノ如ク社外船ヲ世界ノ傭船市場ニ提供スレハ多大ノ正貨ヲ我國ニ吸收スルノ外、直接ニ輸入ヲ増進スルノ作用ヲ爲サナイ。加之戰爭中社外船ヲ強制利用シテ商品ノ輸出ヲ増進シ、以テ外國消費者ニ我商品ヲ慣用セシメテ置ケハ、戰後ニモ其利益ハ繼續スル。特ニ今日輸出ヲ増進スレハ我輸出品生産業ノ改良進歩ヲ來タシテ益外國ノ需用ヲ我商品ニ向ハシメルコトカ出來ル。然ルニ社外船ヲ世界ノ傭船市場ニ提供シテ不定期航運ヲ爲サシムルコトハ、保護會社ノ定期航運ノ如ク我海運業ト寄航地トノ聯絡

ヲ確實ナラシムルノ力ハナイ。併シ乍ラ我國ハ世界ノ海運國トシテ發達スルノ必要ト可能ト有シ、且ツ我國ヲ世界ノ海運國タラシムルニハ獨リ定期航運ニ由ルヘキナク、不定期航運ヲ茂盛ナラシメテ世界ノ海運市場ニ活動セシメネハナラス。然ルニ我カ社外船ハ從來資力ト經驗ト世界ノ海運界ニ於ケル信用トノ不充分ナルカ爲メ、汎ク遠洋ニ於テ不定期航運ヲ爲スコトカ甚タ困難テアツタガ、歐洲戰爭ニ由ル世界ノ船舶缺乏ハ社外船ヲシテ汎ク世界ノ不定期航運ニ從事スルヲ得セシメ、之ヲシテ資力ト經驗ト信用トヲ得セシメツツアルノテ、其ノ國民經濟上ノ利益ハ必シモ多ク戰時ニ於ケル商品輸出増進ノ利益ニ劣ルモノテハナイ。故ニ予輩ハ或程度ニ社外船ヲ呼ビ戻シテ之ヲ我貿易ノ爲メニ利用スルノ有利ナルコトヲ全ク拒マントスル者テハナイガ、此目的ノ爲メニ強制利用主義ヲ探ルコトニ同意スルヲ得ナイ。

四

社外船ノ強制利用主義カ當ヲ得ナイトスレハ、此主義ノ實行ニ必要トスル所ノ對外賣船禁止モ必要ヲ見サルノミナラス、一體ニ對外賣船禁止策ハ今日ノ我國ニ取ツテ不利益テアル。賣船禁止ハ獨リ目下ノ船腹不足ヲ調節スル爲メニ主張セラルルノミナラス、戰後ノ世界海運業ノ競争ニ對シテ我國ノ地歩ヲ固メル爲メニ之ヲ主張スル論者モアル。前ノ目的ノ爲メニ賣船ヲ禁止スルコトトスレハ、遠洋航海ニ堪ユル船舶ニハ一般ニ禁止ヲ適用スルコトヲ要スルト同時ニ、其禁止ハ戰爭

中ニ止マルヘキニ反シ、後ノ目的ノ爲メ賣船ヲ禁止スルニ於テハ、比較的新造高速力ノ船舶ノミ
ニ禁止ヲ適用シ、戰時ニ於ケル偶然ノ事情ニ由リ遠洋航運ニ使用セラルルモ、平時ニ於テハ到底
世界ノ海運界ニ需用セラレサルカ如キ老朽船ハ敢テ之ヲ我國籍ノ下ニ保持スルノ必要ナキト同時
ニ、此禁止ハ戰後ニモ繼續シテ實行セラレテハナラヌ。此ノ如ク賣船禁止ハ單ニ船腹調節ノ爲メ
ノミニ行ハルルモノテハナイガ、茲ニハ序ヲ以テ汎ク賣船禁止策ノ當否ニ付テ一言スル。

目下交戰諸國ヲ初メトシテ中立ノ諸國モ對外賣船ノ禁止又ハ制限ヲ實行シツツアルガ、其目的ハ
戰後ノ海運發展ノ爲メニスルノテナク、寧ロ戰爭中ノ必要又ハ危險ニ備フルコトヲ眼目トスルモ
ノテアル。交戰諸國カ其國旗ノ下ニ在ル船舶ヲ多大ニ徵發スルノ必要ヨリ賣船禁止ヲ行フノ已ム
ヲ得サルハ勿論、交戰國ト接近セル中立諸國モ何時交戰團體ニ加ハツテ戰爭ヲ爲スノ必要ヲ生ス
ルヤモ測リ難イガ、一旦之ニ參加スレハ船舶ノ徵發ヲ行ハテハナラヌ。又歐洲ノ中立諸國ハ例令
ヘ交戰團體ニ加ハラストモ、既ニ國民ノ生活必需品ニ大缺乏ヲ生シツツアル故、何時船舶ヲ徵發
シテ必需品ノ輸送ヲ命スルコトヲ必要トスルニ至ルヤモ知レヌ。又交戰國ト中立國トヲ問ハス、
戰時増益稅ヲ設定セル國ニ於テハ戰時増益ノ最モ大ナル事業ニ屬スル海運業カ其船舶ヲ外國人名
義ニ移シテ脫稅ヲ企テルコトヲ防クノ必要モアル。今日諸外國ノ賣船禁止ハ概ネ如上ノ目的ノ爲
メニ行ハレルノテアツテ、單ニ戰後ノ海運業ノ維持發展ノ爲メニ之ヲ行フノテハナイ。我國ハ交

戰國ノ一テアルトハ云へ、歐洲ト遠隔セル上ニ政治上ノ關係モ薄ク、實際ニ於テハ最モ安全ナル中立國ノ如キ地位ニ立ツモノテアリ、今後我國カ歐洲ニ出兵スル爲メニ多大ノ船舶徵發ヲ必要トスルニ至リ、若クハ獨逸ノ海軍カ我近海ニ出沒シテ之ト交戦シ、又ハ之ニ由テ我沿海ヲ封鎖セラルルカ如キ事實ノ起ルコトハ想像シ難イ。故ニ我國ハ諸外國ト同様ノ目的ヲ以テ賣船禁止ヲ行フノ必要ハナイ。此禁止ヲ實行スルコトトスレハ、其目的ハ一ニ戰後ノ海運ノ維持發展ノ爲メテナクテハナラヌガ、此目的ノ爲メニ賣船ヲ禁止スルハ甚タ不得策テアル。

戰後ノ海運發展ノ爲メニ賣船ヲ禁止スルトキハ、海運界カ不況トナツテ船主カ困難ニ陥ツタ場合ニ之ヲ保護スルノ責任ヲ生セサルヲ得ナイ。然ルニ國家カ此ノ如キ責任ヲ負フコトハ財政上不利ニシテ、又海運發達ノ爲メ最良ノ策ト云フヲ得サルコトハ、前ニ強制的船腹調節ニ付テ述ヘシ所ニ由テ見ルモ明カテアルガ、更ニ此禁止ハ我造船業ノ發達ヲ抑制スルノ不利カアル。戰爭前ニ於ケル社外船ハ殆ント凡テ老朽船テアツテ、之ニ對シ賣船禁止ヲ適用スルノ必要ハナイ。故ニ今日此禁止ヲ適用スベキ船舶ノ大部分ハ、戰爭以來隆盛トナレル我カ造船所ニ由テ建造セラレ、又今後建造セラルヘキ船舶テアルガ、此際賣船禁止ヲ行フトキハ折角隆盛ニ向ヒツアル造船業ニ大ナル打撃ヲ加ヘル結果トナル。造船業ノ發達ハ獨リ海運業發達ノ爲メニ有利ナルノミナラス、我國ニ取ツテ最モ重要ノ軍需品タル軍艦ヲ生産スルモノテアツテ、國防ノ獨立上重大ノ關係ヲ有ス

ル故、成ルヘク之ヲ國內ニ發達セシメネハナラス。從來我國ハ造船獎勵金制度ヲ設ケテ居タニ係
ハラス、國內ノ造船業ハ外國ノ競争ニ堪ヘスシテ甚シキ不振ニ陥リ、僅カニ少數ナル政府ノ軍艦
注文ト保護會社ノ命令船注文ト雜多ノ副業トニ由テ命脈ヲ繋ク有様テアツタガ、戦争以來造船業
カ急激ニ發達シ、特ニ船舶用ノ諸般ノ機械器具ノ生産モ分業的ニ獨立ノ發達ヲ爲シツツアツテ、
之カ爲メ大ニ造船ノ生産費ヲ減シ、造船竣成ノ速度ヲ高メ、技術者勞働者ノ經驗熟練モ進ミ、又
企業者ハ多大ノ收益ヲ得テ事業ノ基礎ヲ鞏固ナラシメツツアル。只タ此戦争ニ由リ世界ノ造船國
タル英國ノ造船能力ハ大ニ膨脹シ、又諸強國ハ造船業カ重要ノ軍需品生産業タルノ關係ヨリ、今後
ハ極力之ヲ獎勵發達セシムルノ方針ヲ採ルノ形勢カアルカラ、戦後我造船業カ之ニ對抗スルコト
ハ決シテ容易テナイ。然ルニ戦後先進國ノ競争ヲ防ク爲メ妄リニ造船獎勵金ヲ増加シ又ハ船舶輸
入税率ヲ高メルコトハ出來ナイ。何トナレハ此ノ如キ政策ハ一面ニ我國ノ船舶ヲ高價ナラシメテ
貿易及海運業ノ發達ニ甚シキ不利ヲ與ヘ、又ハ國庫ニ重大ノ負擔ヲ生スルカラテアル。此際我國
ノ採ルヘキ策ハ戦争ノ爲メ先進造船國ノ競争ノ杜絶セル今日ヲ機會トシテ成ルヘク國內ノ造船ヲ
多大ナラシメ、以テ先進國ニ對スル競争能力ヲ發達セシメルコトテアルガ、賣船禁止ヲ行フコト
ニ由リ國ノ内外ヲ問ハス最高價ノ市場ニ於テ新造船ヲ處分スルノ自由ヲ奪フトキハ、造船業ノ發
達ニ大ナル打撃ヲ加ヘサルヲ得ナイ。最モ近來造船材料ノ輸入ノ甚シク困難トナレル爲メ、我カ

造船業カ豫定ノ如ク多大ノ建造ヲ爲スコトハ困難トナリ、從ツテ今日賣船禁止ヲ行フモ之カ爲メニ造船量ノ大減少ヲ來タス危險ハナイト云ヒ得ルヤウテアルガ、併シ現ニ我造船業ハ材料缺乏ノ爲メ豫定ノ如キ建造ヲ爲スコトヲ得スシテ不利ニ陥リツツアル故、此上ニ賣船禁止ニ由リ造船ヲ益閑散ナラシムルトキハ、造船業ノ蒙ムル打撃ハ決シテ輕クナイ。

五

保護會社ノ命令船ノ運賃カ世界ノ平均運賃ニ比シテ何程ノ比例ヲ保ツヤヲ正確ニ知ルコトヲ得ナイガ、恐ラク其三四分ノ一ニモ及ハサル低率ノモノテアリ、又保護會社カ命令船以外ニ任意ノ定期及臨時ノ航運ニ使用セル船舶、即チ世ニ自由船ト稱スルモノノ運賃ハ、命令船運賃ノ二倍近クニ過キサルモノカ多イ。故ニ之ヲ世界ノ運賃ニ比スレハ尙ホ甚タ低率ナモノテアル。保護會社カ其自由船ノ運賃ヲ此ノ如ク低クシテ居ルノハ何等公ケノ制限ヲ受ケタ結果テハナイガ、若シ之ヲ相當ニ多ク引上ケルトキハ忽チ輸出ニ著シキ減退ヲ生シテ輸出者ノ困難ヲ來タスカラ、故ラニ之ヲ低率ニシタノテアツテ、保護會社ノ營利的見地ヨリスレハ社外船主ノ如ク其自由船ノ大ナル部分ヲ世界ノ傭船市場ニ提供スルコトヲ利益トスルテアラウ。之ヲ以テ見ルモ今日我國ノ輸出ノ盛況ヲ呈セルハ運賃ノ特ニ低廉ナルコトカ大原因ヲ爲シテ居ル。即チ一面ヨリ見レハ現今ノ輸出品ノ少ナカラサル部分ハ、若シ之ニ世界普通ノ運賃ヲ負擔セシムルトキハ、外國市場ニ需用セラレサ

ルカ如キ劣勢ナモノテアル。今日世界ヲ通シテ船舶ノ缺乏甚シトハ云へ、一切ノ船舶カ各國ノ強制使用ノ下ニ置カレテ居ルノテナク、運賃ノ高低ニ由テ自由ニ去就ヲ決シ得ルモノカ尙ホ多大ニ殘存シテ居ル。故ニ若シ我カ輸出品カ世界普通以上ノ運賃ヲ提供シ得ルナラハ、我カ國旗ノ下ニ在ル社外船及外國船ヲ多ク我國ニ呼ヒ寄セルコトカ出來テ、今日ノ如ク多大ノ滯貨ヲ生スルコトハナイ、斯ノ如ク今日ノ滯貨ヲ一掃シ、更ニ進ンテ輸出ヲ増進セントスレハ特ニ低キ運賃ヲ以テスルヲ必要トスルノテアル、是レ即チ船腹調節上國家ノ干涉ヲ必要トスル所以テアル。

我國カ滯貨ヲ處分シテ輸出ヲ増進スル爲メニ、世界ノ船舶就中我カ社外船ヲ非強制的ニ呼ヒ寄セル方法トシテ實行シ得ルハ、直接ニ國家カ之ニ補助金ヲ與ヘテ特ニ低運賃ニ由リ輸出品ヲ輸送セシムルコトト、保護會社ニ干涉シテ更ニ其自由船ヲ増加セシムルコトトデアル。前ノ方法ハ一時のニ補助海運業ヲ成立セシムルコトテアルガ、此方法ハ國庫ノ負擔ヲ増加スルノ不利アルノミナラス、船腹増加ヲ必要トスル所ノ航路ノ多數ハ現ニ保護會社ノ從事シツアル補助命令航路ト同一テアル。故ニ有効ナル統一の船腹利用ヲ爲スタメニモ後ノ方法、即チ保護會社ヲシテ自由船ヲ増加セシムルノ方法ヲ有利トスル。最モ國家カ干涉シテ自由船ヲ増加セシムル上ハ、最早ヤ之ヲ自由船ト稱スルヲ得ナイトモ言ヘルガ、尙ホ之ヲ自由船ト呼フ所以ハ、今日ノ自由船ト同シク世界普通ノ賃率ヨリモ相當ニ低キ運賃ヲ以テスル船舶タラシムルカ爲メテアル。保護會社ヲシテ

其船腹ヲ増加セシムルニ付キ、其命令船ノ如キ法外ナル低率運賃ノ船舶ヲ増加セシムルコトハ事實不能テアツテ、其増加船舶ノ賃率ハ之ヲ自由船程度ニ止マラシムルノ外ハナイ。又此程度ノ運賃ヲ以テ船腹ヲ増加スレハ今日ノ滯貨ヲ有效ニ處分シ得ルノテアツテ、必シモ命令船ノ如キ低率タルヲ要シナイ。又若シ命令船ノ如キ低率ノ船舶ヲ増加スルコトスレハ、殆ント際限ナク出貨ノ増加ヲ來タシテ到底貨物停滯ヲ防キ得ナイテアラウ。社外船カ世界ノ海運市場ニ出テテ高率ノ運賃ヲ吸收シ得ル今日ニ於テ、商品輸出ノ増進ノ爲メ之ヲ呼ヒ戻シテ命令船運賃ノ如キ低率ニ由リ航運セシムルコトハ、一種ノ對外投資ヲ行フノテアツテ、國民經濟上有利ト云フヲ得ナイ。

保護會社ノ國家ニ對スル關係ハ航海補助ニ關スル法規ト補助金契約トニ由テ定マリ、國家ハ之ニ對シテ自由船ノ増加ヲ命令スルノ權限ハナイ。自由船ノ運賃ハ世界ノ運賃率ヨリモ遙カニ低キ故、保護會社ヲシテ自由船ヲ増加セシメントスレハ之ニ大ナル損失ヲ負擔セシメテハナラヌガ、法律上國家ハ此ノ如キ負擔ヲ命スルヲ得ナイ。固ヨリ保護會社ハ多年國家ノ優渥ナル保護ニ浴シテ今日ノ隆盛ヲ來タシ、其平素ノ配當率ノ如キモ國庫ノ補助ニ由テ維持セラルル事業トシテハ過大ト云フヘキ高率ヲ保ツテ居タ故、戰後ノ海運業ノ發展ヲ妨ケサル限リハ、戰時ニ於テモ低利ニ満足シテ大ニ國民經濟ノ爲メニ貢獻スヘキ道德上ノ責任ヲ有シ、決シテ補助關係ヲ有スル一定ノ命令船ノ航運ヲ繼續スルコトニ由テ報國ノ義務ヲ盡シタトハ云ハレナイ。只タ今日保護會社ハ既ニ命

令船ト略ホ同數ノ自由船ヲ提供シテ貿易ヲ助ケツツアルコトハ之ヲ認メサルヲ得ナイ。此自由船ノ多クハ保護會社ノ所有ニ係ハリ、船價ノ低廉ナル時代ニ取得シタルモノテアルガ、今日以上ニ自由船ヲ増加セシメントスレハ、保護會社ハ高率ノ傭船ヲ爲シテ之ヲ低率ノ航運ニ使用シ、以テ積極的ニ大ナル損失ヲ負擔セテハナラヌ。故ニ保護會社ニ對シテ此上更ニ幾分ノ自由船増加ヲ勸誘スルノ餘地カアルトシテモ、目下ノ多大ナル滯貨ヲ一掃シテ膨脹セル輸出ヲ繼續スルニ足ルカ如キ多大ノ船腹増加ヲ爲サシムルコトハ、實際ノ問題トシテハ甚タ困難ト云ハテハナラヌ。左リ乍ラ國庫ヨリ其缺損ヲ補給シテ自由船ヲ増加セシムルコトハ財政上困難テアル。故ニ自由船増加ノ方法トシテ考量ノ餘地アルハ、今尙ホ法外ニ低率ナル命令船ノ運賃ヲ相當ニ引上ケシメ、其代リニ自由船ヲ成ルヘク増加セシメルコトテアル。命令船ノ運賃ハ今日マテ既ニ戰前ニ比スレハ二三割引上ケテ認可セラレタガ、尙ホ自由船ノ賃率及世界普通ノ賃率ニ比シテ甚タ低キコトハ前ニ述ヘシ如クテアルカラ、更ニ之ヲ相當ニ引上ケテ其代リニ自由船ヲ増加セシムルコトヲ適當トスル。固ヨリ命令船ノ賃率ヲ引上クレハ、從來主ニ命令船ニ積載シタ商品ノ輸出ハ多少ノ損害ヲ蒙ルガ、國民經濟全體ヨリ見テ自由船ヲ増加スルノ利益ハ此損害ヲ償フテ餘リカアル。

六

運賃ノ甚シク低率ナル命令船ヲ重ニ利用スル所ノ商品及輸出者ハ必シモ一定シテ居ルノテハナイ

ガ、商人カ客ヲ取扱フ普通ノ商略ニ從フテ、船會社モ主ニ年來ノ得意先ニ對シ此ノ如キ有利ノ船腹ヲ多ク割宛テテ居ルヤウテアル。果シテ然ラハ命令船ヲ主ニ利用スル商品ハ在來ヨリ輸出セラレタ種類ノモノテアツテ、更ニ高賃率ノ自由船ニハ主ニ戰爭以來輸出ノ盛ントナツタ種類ノ商品カ積マレルノテアル。在來ヨリ輸出セラレタ商品ハ即チ我國カ生産上確乎タル長所ヲ有スル商品デアツテ、彼ノ戰爭以來輸出セラルルニ至リシ商品ノ多數ニ付テ見ルカ如ク、戰後ニ輸出ヲ繼續スルノ見込ナキ劣勢ナモノテハナイ。故ニ我國ノ長所トスル此等ノ商品ニ對シ低賃率ノ特典ヲ與ヘテ多々益其生産及輸出ヲ發達セシメルコトカ永遠ノ利益デアルト云ヒ得ルヤウテアル。併シ乍ラ在來我國ノ長所トスル輸出品生産業ハ特別ノ保護ヲ加ヘストモ戰後ノ世界市場ニ於テ其地歩ヲ維持シ得ルニ反シ、新興事業ハ成ルヘク戰時ノ好機會ニ乘シテ之ヲ發達セシメ、以テ戰後ノ競爭ニ備ヘルコトヲ必要トスル。加之在來ノ輸出品ハ原料半製品ノ如キ低級ノ生産物ヲ主トスルニ反シ、新興事業ノ中ニハ戰爭ニ由リ先進國ノ競爭ノ減退杜絶シタルニ乘シテ發展シタ所ノ高級生産業カ多ク、我經濟ノ進歩ノ上ヨリ此種ノ高級生産業ハ特ニ之ヲ助長スルノ必要カアル。

自由船ヲ多ク割宛テラレル輸出品カ凡テ此ノ如キ高級生産品デアルトハ云ハレナイガ、輸出品ノ種類ノ如何ヲ問ハス、一體ニ自由船ノ高キ運賃ヲ負擔スルモ尙ホ能ク輸出セラルル如ク、海外ニ需用ノ強キ貨物ヲ多ク輸出スルコトカ有利デアリ、命令船ノ低賃率ヲ以テセサレハ輸出ヲ維持シ

得サルカ如キ商品ヲ強テ此際多量ニ輸出スルノ必要ハナイ。命令船ノ賃率ヲ以テセサレハ輸出ノ減退杜絶ヲ來タスカ如キ劣勢ノ輸出品ハ、戰後ニ至レハ世界市場ヨリ驅逐セラルヘキ劣勢ナモノテアル。只タ實際ニ今日命令船ヲ多ク利用スル商品ハ前述ノ如ク多年輸出シ來ツタモノテアツテ、其輸出ヲ繼續スル爲メニハ自由船ノ如キ低率ヲ必要トセサルモノテアル。然ルニ尙ホ之ニ對シテ多ク命令船ヲ割宛ツルコトハ、特種ノ輸出者ニ對シテ不必要ナル特別利益ヲ與ヘルコトナル。又一般運賃ノ暴騰セル今日ニ於テ命令船ノ運賃ヲ法外ニ低率トシテ置クトキハ、輸出關係者ノ間ニ於テ此特典爭奪ノ爲メ激烈ナル競争力起リ、道德上忌ムヘキ風評ヲ耳ニスルコトカ少ナクナイ。去リ乍ラ國家カ如何ナル輸出品及輸出關係者ニ對シテ如何ナル割合ニ命令船ヲ供給スヘキヤヲ一々指圖スルコトハ到底不能テアル。故ニ命令船ノ運賃ヲ自由船ノ程度ニ急激ニ引上タルコトハ不穩當テアルトシテモ、相當ニ之ヲ引上ケテ其代リニ自由船ヲ大ニ増加セシメ、以テ自由船ノ高キ運賃ヲ負擔スルモ能ク輸出シ得ルカ如ク海外ニ需用ノ急ナル貨物ヤ新興ノ高級生産品ニ對シテ豐富ニ船腹ヲ供給スルコトヲ得策トスル。

以上ニ由リ船腹調節上如何ニ各種ノ貨物ヲ取扱フヘキヤノ大體ヲモ決定シ得ルノテアルガ、更ニ各航路ニ對シ如何ニ船腹ヲ分配スヘキヤヲモ考ヘ子ハナラヌ。此點ニ付テハ先ツ現在ノ滯貨ノ多少ニ應シテ配船スルコトヲ正當トスル。是レ貴重ナル貨物カ徒ラニ阜頭ニ横ツテ輸出關係者ニ對

シ日々多大ノ損失ヲ生シツツアルヲ救済スル上ニ必要ナルノミナラス、現在ノ滯貨ノ多キ航路ハ概ネ今後モ出貨ノ多キモノテアル爲メテアル。只タ船會社カ營利ヲ專一ニ航運ヲ營ム場合ニハ各航路ノ目前ノ出貨ノ多少ニ應シテ船腹ヲ之ニ割宛ツルコトヲ利益トスヘキモ、國家カ干涉シテ船腹調節ヲ行ハシムルニ方ツテハ目前ノ出貨ノ多少ノミニ由ルヲ得ナイ。之ト同時ニ將來ノ貿易及海運ノ發達上ノ利害ヲ考ヘチハナラヌ。而シテ今後ノ我カ貿易及海運業ハ東洋南洋ノ後進國ノ方面ニ發達スルコトヲ必要トスル故、自由船ノ分配ニ付テモ特ニ此方面ニ重キヲ置カチハナラヌ。本來此方面ニ對シテハ更ニ命令航路ノ新設擴張ヲ要スルモノカアツテ、先進國ノ競争ノ退滅セル今日ハ其新設擴張ノ好機テアルガ、今日ノ如ク世界ノ船舶缺乏ノ甚シクナツタ際ニ之ヲ實行スルコトハ非常ノ難事テアル。然ルニ今マ國家カ干涉シテ自由船ヲ増加セシムルコトトスレハ、各航路ノ滯貨ノ一通リ處分セラレタ上ハ、戦後ノ發展ヲ重要視スヘキ東洋南洋ノ方面ニ對シテ特ニ多ク自由船ヲ分配シ、以テ此方面ニ對スル命令航路ノ新設擴張ノ目的ヲ幾分ニテモ充タスコトトスルヲ適當トスル。